

兵庫県は豊岡、

日置で1ヶ月ほどの滞在制作をしている友人西

くんを訪ねるため早起き

こんな時間に外に出るのはひさしぶりだ

通勤時間帯のバス停は、マジで一人一メートルほど空けて列になっている

片道3時間ほど、バスと電車を乗り継いで向かう

亀岡前でトンネルを抜けたらとつぜん霧

園部駅ではしんどそうなおっちゃんが煙草を吸いながらとぼとぼホームを歩いている

窓の外を眺めていると、なんだここ、みたいな場が多いのだが早くて写真が撮れない

椰子の木とソーラーパネルのある家 唐突な公園（広い） おかしななかかし

江原という駅で降り、いい具合の商店街を歩く SUVLOGというスペースが目的地

SUVLOGに入るとそこはもうほとんど西くんの家だった 間接照明とお香の匂いがそう思わせるようだ

二階でマリカーをして遊んだ 大きな鏡のついた大きな古い棚があった 曇に布団が敷かれていた ここで眠っているのかな

ちょっと乾杯しようやと言われ、西くんおすすめの食事処をめざす 商店街を抜け辿り着いたそこは見事に臨時休業だった

「田舎の店は急に休む」と言っていた西くんの言説が証明されてしまった

けっこう商店街の中の定食屋さんへ入り、レバーオイルと唐揚げと瓶ビールで乾杯をする

西くんは「朝いちで食べるもんがレバーオイルて」と何度も言っていた

当然のようにお店の方と話している西くんに「馴染んでるね」と言うと、「馴れ馴れしいだけ」と笑った

グーグルマップで見ていたら海が近そうだったので「海にいきたい」と言っていたのだが、どうやら海、全然近くなかったらしく（西くん、LINEで「海近いよ」って言ってなかった？）、結局車を出してもらうことになる

めっちゃ揺れる電車に乗って豊岡まで出た

街を歩くとときどきおもしろいものに出くわす 「君の名は」という看板（ところが店の実体はどこにもない） 日焼けしすぎて真っ白のパチンコやさん 民家の真前にコンドームの自販機

これからご飯を食べるというのに西くんは商店街の中で天ぷらを買っていた 独り言を言いながらもたもたと動くおじいちゃんの売ってくれた天ぷらはおそらく家で温め直すことが想定されていて冷え冷えだった

散策後、「かも川」という定食屋に入り、ビールを飲みつつ昼ごはんを食べる 脇におもちやがたくさんあってあちこちに漫画もあってとうぜんカレンダーも貼ってあってなんだかおばあちゃんちみたいな店だった

ときどきなっちゃんとビデオ電話がつながる なんだこれ 西くんってふだんからこういう生活送ってるのか？

あっちの景色とこっちの景色を見せ合って何か喋っているのだが音声がガサガサで音が遠くてほとんど何を言っているかわからない

その後、豊岡の地域おこし協力隊の瑞帆さん、のぶさん、小峠さんの3名と会い、車を出していただいて海へ向かう

とちゅう釣り場へ寄ったり貸しグラウンドを見学したり、ドライブってこういう感じなのかなというドライブ感だった

目指した海は今子浦というところらしい 日本海らしく、磯臭くてごみだらけの海だった

たまらん これこれ！ と思ったら、ちゃんときれいなスポットもあるようだ

大きくて平らな岩から岩へと飛び移ってどんどん沖の方へ近づく 景色が開けてくる しばらくそこで写真を撮ったり動画を撮ったりして遊んだ

ちょうど夕暮れときで、絶景！ と思ったら、日本の夕陽百選に選ばれているらしい へえ～と思ったが、今よく考えたら百選って割と多いな 47しか都道府県はないのに

岩の隙間には貝や魚がたくさんいた こういうのを眺めているだけでずっと時間を過ごせてしまう 生き物の存在を感じる水場が好き

展望台の方へ行こうということになり、どんどん坂を登ってゆく

この坂、なかなかの傾斜、細い道だが、柵などはない 片側は山、片側は崖

子供が走ったらガチでキレてしまいそうなほど危なげ

西くん、隣で「俺ちょっとマジで嫌かも」などと言っている 怖いらしい

道の海側へ寄り、わたしが谷底を覗き込むたびに「まなみさんちょっとマジで落ちんといでや」と言いながらバッグを掴もうとする 逆に怖いのでぜったいにやめてほしい

そのまま展望台まで登ったが、西くんの限界が近そうだったのですぐに降りた 景色はよかったです 謎の洞窟を見つけた 遠くに船が横切った

電車の時間が迫っていたので、そのまま SUVLOG 近くまで送ってもらい、荷物をかっさらってろくに挨拶もできないまま電車に飛び乗った 帰りの電車はずっと眠っていた

京都タワーを見ると、「帰ってきちゃったな」みたいな、残念なような、安心したような、そんな気分になる

20代前半のころ、学校を出たあと新卒で就職したのは京都駅構内の施設だった ばっちり京都タワー

を臨める大きな窓を見ながら、人事の人に「京都タワー、毎日見ると嫌になってくるよ」と 言われたことがある

わたしは結局京都タワーが嫌になる前にその仕事を辞めて、今でも京都タワーを見ると、おおっと思う 大きくて光っていてきれい